

## 富山市総合計画審議会第6回安心部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階第3委員会室

日時：平成18年11月17日(金)

10:00 ~ 11:35

### 1 開会

### 2 部会長あいさつ

宮田部会長あいさつ

先日も部会が行われ、部会としては今回が最後となる。この部会の議論も煮詰まり、計画の完成度も高くなってきているが、最後の仕上げとなるので、しっかりと意見を述べてほしい。

### 3 議事

- ・総合計画前期基本計画(案)についての意見と対応(案)について
- ・市民に期待する役割について

#### <概要>

(部会長) まず、本心配付された資料について一括して説明をお願いしたい。

(事務局) 資料について説明

(部会長) 意見と対応に関するところで意見はないか。

(委員) 意見と対応(案)のNo47の部分で、HIV対策について加えられたが、その蔓延防止には、ウガンダのABC政策が有効とされている。(Abstinence, Be faithful and use Condoms)日本では、Cにあたる部分を強調しているのではないか。AとB(自己抑制と貞操)を重んじる方向での記載が基本計画に必要ではないか。

(事務局) 国の方向として議論されるものと考えており、国の動向を見ながら検討したいと思うが、現段階で富山市の指針となる総合計画に独自の方向を記載することは難しいと思う。

(部会長) これまで、委員が一貫して述べている部分であると思う。個別の事業の実施段階で検討されるべきものと思う。

- (委員) 何のために記載があるのかを、読み手が理解できれば、記載しても問題はないと考える。
- (部会長) 個別の部分になるので、総合計画に記載することは難しい。意見があったことを留めておくので、今後実施段階で事務局として検討してほしい。
- (委員) 先日の北海道沖の地震で、津波警報が出され、住民に避難勧告が出されたが、ほとんど避難していなかったという報道があった。  
このように、行政が行っている事を住民が理解し、行動するためにはどうすれば良いのか。協働以前の問題であるが、総合計画で表現することが必要ではないか。
- (事務局) 意見と対応(案)の No71~75 の対応(案)に、コミュニティづくりに参画するため、共に学びあう機会の提供に努めると記載したとおり、まずは地域の会合に参加して、地域で学んでいただくことが、第一歩であると思う。
- (部会長) 地域のつながりをもう一度構築することが必要である。そのためには、伝統的な価値や規範的な価値も大きく関係すると思う。これからは、市民も役所任せではなく、一緒になって、協働でまちづくりを行うことが必要と思う。今回の計画では、協働を一つの大きな柱としており、特徴の一つと思う。
- (委員) 先ほど、避難の話が出たが、今年洪水ハザードマップが配布された。これは、白岩川流域については今後見直しが必要なものである。このことは記載しなくても良いのか。  
また、避難の際の要支援者の情報などは、地元でないと把握できないので、そのことについて住民の意識をいかにつくるかが重要と思う。
- (委員) 住民の意識を高めるには、どの施策や事業等においても作成・実施する前に市民に投げかけて、ワンステップ入れることが必要と思う。
- (委員) 今のことは、町内会長など住民の代表が、どれだけ地元で住民に話ができるかに寄る部分大きい。地域にリーダーをどう作るかが重要と思う。例えば、新しい住宅団地にはリーダーがいない。そのような地区の住民はどうするのか。そういう地区は、行政が動いても、住民がついていかない。協働以前の問題である。
- (委員) 先ほどの委員の意見に賛同する。まず市民に投げかけることが必要と思う。できるだけ投げかける対象を広くしてほしい。従前のやり方を根本的に変えなくてはならない。

- (委員) 住民全てに投げかけるのは難しいと思う。  
42頁の施策1子育て環境の充実のところ、44頁 ひとり親家庭への支援という記載があるが、なぜひとり親になったのか、そのケースを加味して支援するべきではないか。  
コミュニティにどう参画させるかは、まずは子どもがきっかけになると思う。子のつながりから親のつながりに発展させることも方法と思う。
- (部会長) 204頁の市民主体のまちづくりの 市政への参画機会の拡大のところいくつかの参画手法が述べられている。手法も随分新しくなっている。
- (委員) 行政が市民全体をカバーした施策運営は難しい。市民に期待する役割はもっと強調すべき。もっと記載しても良いのではないか。
- (委員) 今回の総合計画の策定に際し、審議会を設置し検討してきた。今後計画を策定する際には、ワークショップ方式で行ってほしい。  
全体会をワークショップにし、安心、安全、潤い、活力、協働のグループに分け、第1回は“安心”について議論するなどすれば、全体を通して意見も述べやすいし、調整することも容易ではないか。
- (委員) 公募委員を半分以上入れることも手と思う。そうすることで、市民意識を全体に俯瞰することができるのではないか。
- (部会長) 策定のプロセスに関する意見であるが、自治体の人口規模によってやり方があると思う。今後の総合計画の見直しや改定の際には、この意見を考慮してほしい。
- (委員) NPOの参画も必要。
- (部会長) NPOは自らの意思でまちづくりに参画しているので、審議会委員となり市政に参画することは良いことである。NPOや市民が市政に参画する仕組みづくりが重要である。そういう意味では、公募提案型事業は市民参画の裾野を開くことになり、評価できる。
- (委員) 先ほど、ひとり親家庭への支援について意見があったが、総合計画で支援を抜き出して明記することは、逆に、問題のある家庭との意識を市民が持つのではないか。
- (委員) ひとり親と一人暮らし高齢者、ひらがなと漢字の使い分けに意味があるのか。

- (事務局) ひとり暮らし高齢者については、漢字とひらがな使いが両者記載されているので、統一したい。
- (委員) 国の政策は世界をみて進められるが、市も世界をみて政策を進めても良い。過去に富山県は教育県として、国からの視察が沢山あった。国の政策に沿って施策を進めることも重要であるが、それだけでなくても良い。また、市同士が関わりあって施策を進めていくことも今後重要と思う。
- (委員) 先ほどの HIV 対策に関する意見は、性教育と直結するものであり、人や年代によって意見が異なる難しい問題である。
- (部会長) いずれにせよ、問題は、富山市で健康に生活するということと思う。個別の問題は今後の課題である。
- (委員) 46頁の施策2 学校教育の充実の 自主性や創造性を育てる教育の推進の中に、生きる力の育成について記載がある。生きる力は、子どもが人と人との関係の中で培われる。人と人との関係を円滑にするためには、日常生活で様々なことに“気が付く”ことが必要なため、想像力を身につけることが重要と思う。このことを、我々からのメッセージとして記載できないか。
- (部会長) 46頁の現状と課題に記載することができるかもしれない。もう一ひねりできるか、事務局で検討してほしい。
- (委員) “気が付く”のは、自分が失敗して“気付く”時と、他人を見て“気付く”時がある。子どもは人の真理を学び、大人は宗教的な真理や情操を子どもに教えることで、子どもの“気が付く”力を高めることができる。
- (部会長) 基本的な価値を伝えるということと思う。表現するには工夫が必要と思うが、検討してほしい。
- (委員) 最後に要望として述べると、今後の市政運営にあたっては、審議会が隠れ蓑にならないようにしてほしい。
- (部会長) ではこれで終了させていただく。本日はありがとうございました。

#### 4 閉会

(以上)